令和５年度　三次市立川地小学校だより

高志（こうし）

よく考える子
かかわりあう子
自ら行動する子

学校教育目標：ふるさとを愛し，夢の実現に向けて主体的に行動する児童の育成

「平和のバトン」を次の世代へ…

《No. ５》
令和5年8月4日

連日気温３５度を超える猛暑日が続いております。夏休みに入って約２週間が過ぎました。いかがお過ごしでしょうか。

さて，今日は第１回目の夏休み登校日でした。８月６日の原爆の日を前に，全校で平和学習を行いました。私は，毎年夏に行う平和学習に人一倍こだわりを持って来ました。

個人的なことになるのですが，私の母方の祖父は原爆で亡くなりました。また，母は疎開先でいわゆる「黒い雨」を浴びて被爆者認定されています。（つまり，私は被爆二世ということになります。）さらに，両親とも原爆ドームから一番近い学校（本川小学校）に通っていました。

こうした背景から私は，両親から聞いた話を子どもたちに伝えていかなければという使命感をもっていつも平和学習をしてきました。そして，今年の平和学習についても，私が話す機会をいただいたので，子どもたちにしっかり話をしていこうと考えていました。

ですが，今年は大部分の話を**「平和について考えた」６年生有志**にしてもらいました。実は，１学期の６年生の国語で「意見文を書く」という学習がありました。グループごとによりよい社会をつくるための提言を行い，それを私が聞いて講評するというものでした。いろいろな提言がある中で，「平和について訴えたい」と広島に落とされた原爆のことや戦争のことを詳しく調べて発表したグループがありました。発表を聞き，私は心打たれました。そして，その場で「今日の発表をまとめ直して，平和学習で話をしてほしい。」とお願いをしました。このグループの子どもたちは全校のみんなに訴えようとさらに調べ学習を進めて，発表内容を作っていきました。（自分たちで原爆資料館にも行こうという計画も立てていました。諸事情のため実現はできなかったのですが，その代わりに私の持っている資料を提供して調べ学習を進めてもらいました。）自ら課題を見付けその解決のために学びに向かう姿は，今問われている**「主体的な学び」**そのものです。

そして，次のような内容を全校のみんなに訴えました。（一部まとめて紹介します。）

〇原爆による障害は，①熱線と火災による障害，②爆風による障害，③放射線による障害があり，これらの障害を受けることで亡くなった。
〇広島に落とされた原爆で約１４万人が亡くなった。三次市の人口が約６万人でその数の３倍近くの人数が亡くなっている。
〇原爆は広島と長崎に落とされたが，京都にも落とす計画があった。
〇原爆での被害だけでなく，沖縄戦では約２０万人の人が亡くなっており，広島の原爆で亡くなった人の数よりも多い。
〇ほかにもたくさんの戦争があり，人，動物，植物，環境に影響を与えている。
〇原爆ドームについて，保存するか取り壊すかの議論をされた時があった。「原爆ドームを見るとむごたらしいありさまを思い出すので取り壊してほしい」という考え，「あの痛々しい原爆ドームだけが，いつまでも恐れるべき原爆のことを次の世代に訴えかけてくれる」といったさまざまな意見がある中で保存へと固まっていった。
〇原爆ドームは，次の世代の人に核兵器の恐ろしさを伝え，この世から核兵器をなくし，平和への大切さを訴えている。

私自身も，実際には戦争を体験していない世代となっています。だからこそ，戦争体験のある親世代の話を次の世代へ伝えていこうという思いでしたが，そのバトンはしっかりと今の子どもたちにも渡っているなと感じました。

これから，８月６日，９日の広島・長崎の原爆の日，８月 15 日の終戦の日と，戦争や平和について考える場があります。親子で話をする機会を作っていただけたらなあと思います。

６年生の話を受け，私は「へいわってどんなこと？」という絵本を使って，話をしました。

どうなっていることが「平和」なのか，いろいろな角度から問いかけています。

さて，「平和」というのはどうなっていることなのでしょうか？これも，親子で話をしてみてください。

最後に，原爆に関わる資料の一つです。これは，私の祖母が持っていた花びんです。原爆の熱線で溶けた（やわらかくなった）ところに爆風をうけ，裂けた状態になっています。普通なら砕けて割れてしまうところです。原爆の熱線や爆風のすごさが伝わってきます。これは，１年間原爆資料館で展示されました。